



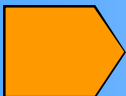
# 2019年3月期 第3四半期 決算補足資料

証券コード：6908

2019年2月4日

イリソ電子工業株式会社



-  **I. 2019.3期 第3四半期連結決算概要**
- II. 2019.3期 連結決算見通し**
- III. 中長期事業環境と取り組み**

# 1. 2019年3月期第3四半期 業績のポイント



**過去最高売上を更新し増収。営業利益は南通工場関連費用など、成長投資で減益**

- ・ 売上：車載市場のカーエレクトロニクス分野がADAS・電動化の進展を背景に伸長し、第3四半期累計で過去最高売上を更新。市況の悪化や一時的要因がある中で増収を確保。

市況の悪化	アメリカでの乗用車販売の低迷
市況の悪化、一時的要因	中国での貿易摩擦による自動車販売台数減少やFA機器の在庫調整、スマートフォン販売不振によるFA機器の生産減少
一時的要因	欧州でのWLTP導入による自動車の在庫調整

⇒ 市況の悪化と一時的要因で約20億円弱の減収要因

- ・ 利益：ターゲットとしている市場は引き続き伸長。  
このための成長投資は継続して行っており、4月に開業した南通工場関連費用の他に研究開発費、人財への投資が増加し、対前年同期比減益。

## 【市場別】

- ・ 車載市場：ADASの進展により安全系(カメラ・レーダー)向けが約20%増加、三次元可動BtoBコネクタ“Z-Move<sup>®</sup>”を含む電動車のパワートレイン系向けが約80%増加
- ・ コンシューマー市場：ゲーム機向けを中心に減少
- ・ インダストリアル市場：第2四半期からのFA機器の需要減もあり、ほぼ横ばい

## 【地域別】

- ・ アメリカ：セダンタイプの乗用車を中心とした新車販売の低迷によりAVN分野が減少
- ・ 中国：10月より自動車販売が急速に悪化。米中貿易摩擦の影響で在庫調整もあり。  
ただし、パワートレイン系向けを含むカーエレクトロニクス分野は堅調に推移
- ・ 欧州：WLTP導入による自動車の在庫調整があるものの、カーエレクトロニクス分野の安全系向けを中心にカバーし増収

注：WLTPは、「国際調和排出ガス・燃費試験法」のこと

## 2. 2019年3月期第3四半期連結業績(前年同期比)



単位：百万円

	18.3期 第3四半期 累計	19.3期 第3四半期 累計	前年同期比
売上高	31,641	32,440	799 102.5%
営業利益	6,196 (19.6%)	5,012 (15.5%)	△1,183 80.9%
経常利益	6,087 (19.2%)	5,289 (16.3%)	△797 86.9%
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	4,424 (14.0%)	3,869 (11.9%)	△554 87.5%
E P S	186.87円	163.86円	
為替レート 期中平均	ドル 111.82円 ユーロ 128.59円	110.82円 129.38円	△1.00円 0.79円

### 3. 売上高詳細(市場別)

単位：百万円

		19.3期 第3四半期累計	前年同期比	構成	増減要因
オートモーティブ(車載)		27,634	103.5%	85.2%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主要地域で自動車販売が不振の中、ADASや電動化の進展を背景にエレクトロニクス分野が好調</li> <li>・ ADAS関連で安全系向けが前年同期比約120%</li> <li>・ 電動化関連でパワートレイン系向けが前年同期比約180%</li> </ul>
区分	AVN (カーAV、ナビゲーションシステム等)	12,353	95.7%	38.1%	
	エレクトロニクス (安全系、電装関連、駆動系等)	15,281	110.9%	47.1%	
コンシューマー (OA、ゲーム機、デジカメ、携帯電話、TV等)		3,137	94.8%	9.7%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ゲーム機向けを中心に減少</li> </ul>
インダストリアル (産業機器等)		1,669	101.5%	5.1%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 貿易摩擦の影響で設備投資抑制、在庫調整が発生し伸び率が鈍化</li> </ul>
合計		32,440	102.5%	100.0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 海外比率79.3%</li> </ul>

注：AVNIは、オーディオビジュアルナビゲーションの略で、カーオーディオ全般、ナビゲーションシステム等のこと

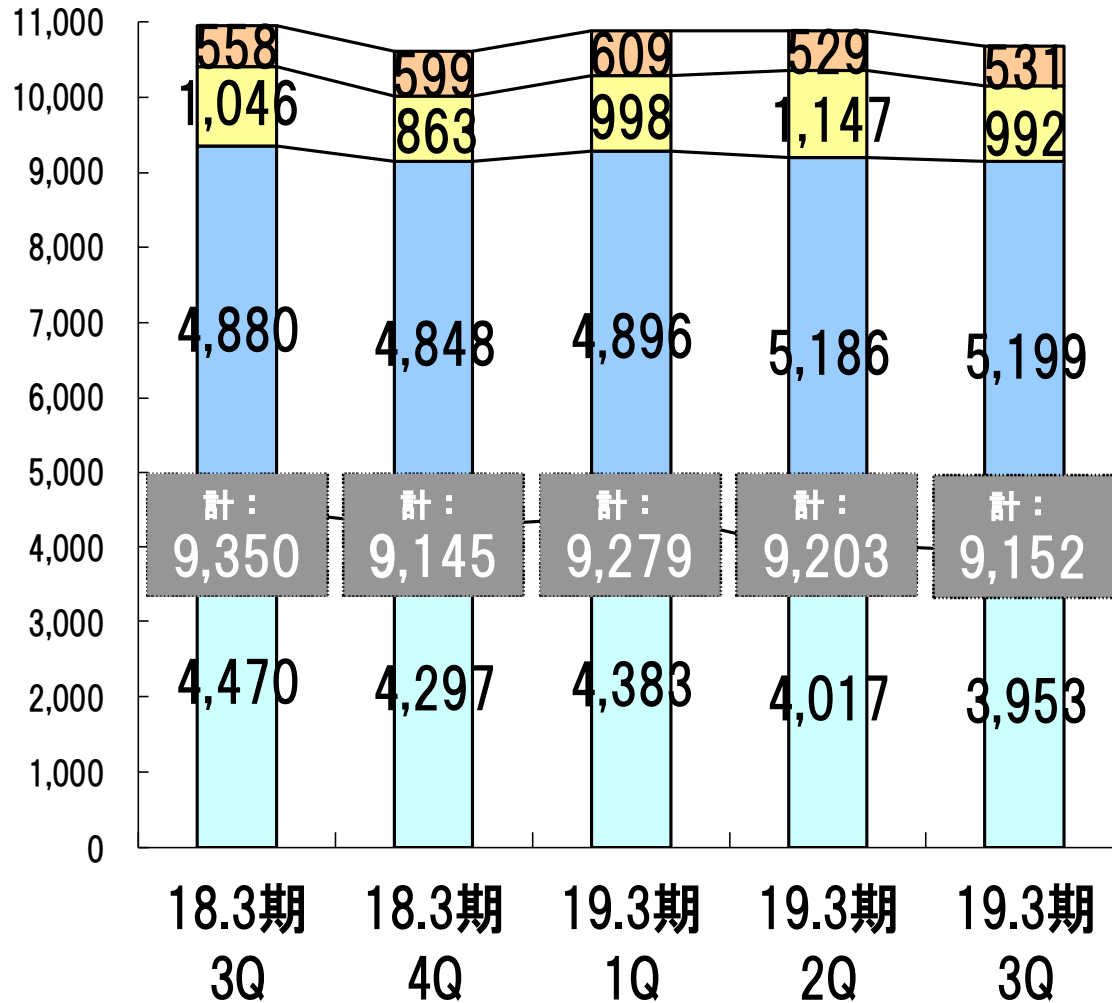


# 4. 市場別売上高(四半期推移)



単位：百万円

10,954 10,607 10,886 10,879 10,675



◆対18.3期3Q

インダストリアル  
95.2%

コンシューマー  
94.8%

車載  
(エレ)  
106.5%

車載  
(全体)  
97.9%

車載  
(AVN)  
88.4%

・中国でスマートフォン向けの設備投資の減少に加え、貿易摩擦の影響による設備投資抑制もあり、FA機器向けの需要が鈍化

・ゲーム機向けを中心に減少

・カーエレクトロニクス分野の最高売上更新。安全系とパワートレイン系向けが牽引

・カーAVN分野はアメリカ、欧州、中国の新車販売不振の影響もあり減少

□車載 (AVN) □車載 (エレクトロニクス) □コンシューマー □インダストリアル

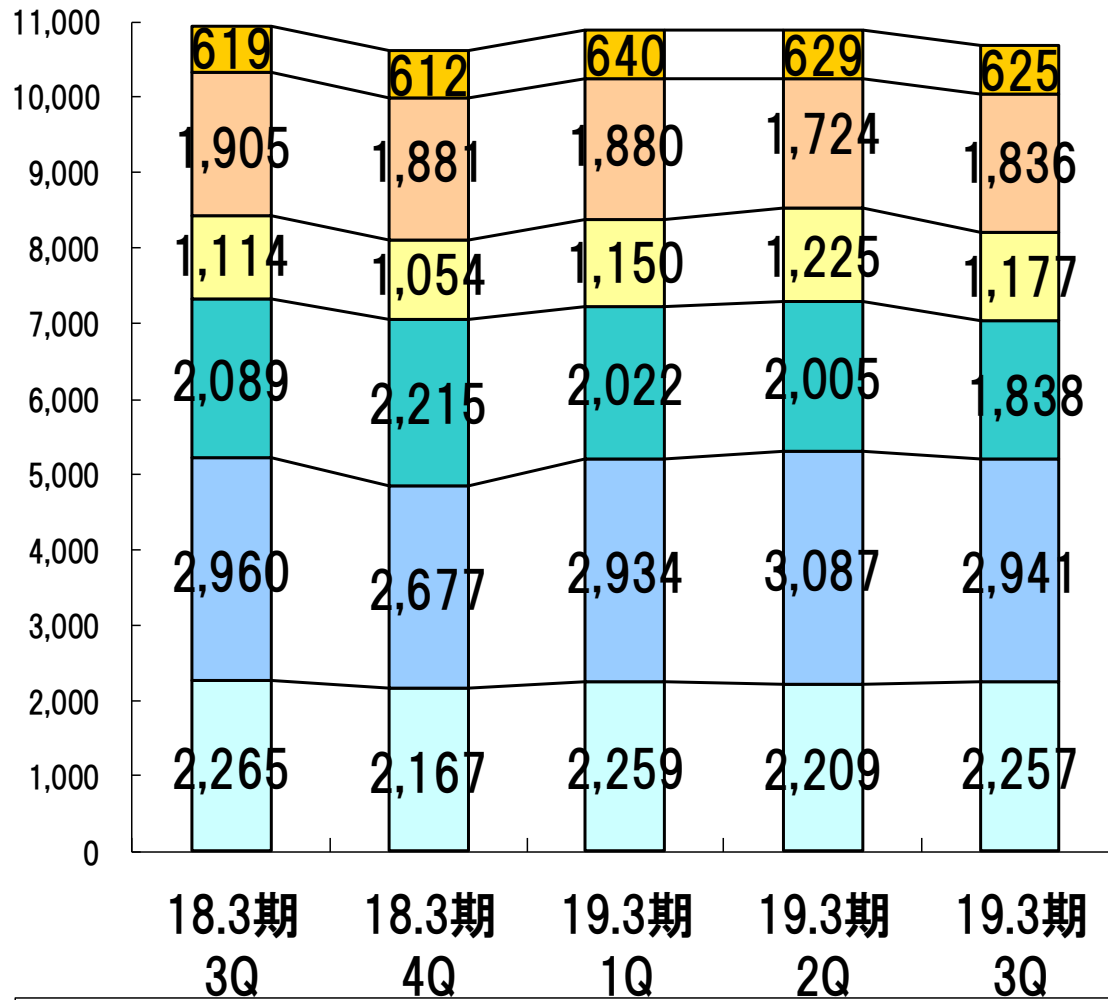


# 5. 地域別売上高(四半期推移)



単位：百万円

10,954 10,607 10,886 10,879 10,675



◆対18.3期3Q

タイランド  
100.9%

米国  
96.3%

シンガポール  
105.6%

欧州  
88.0%

中華・韓国圏  
99.4%

日本  
99.6%

・コンシューマー市場の減少を車載市場がカバー

・セダンタイプの乗用車販売不振の影響で減少

・カーエレクトロニクス分野が好調

・WLTP導入の影響で在庫調整が行われており、車載市場が減少

・乗用車販売不振でカーAVN分野は減少したが、パワートレイン系向けを含むカーエレクトロニクス分野は好調を維持

カーエレクトロニクス分野で増加したが、その他の市場で減少

□日本 □中華・韓国圏 □欧州 □シンガポール □米国 □タイランド



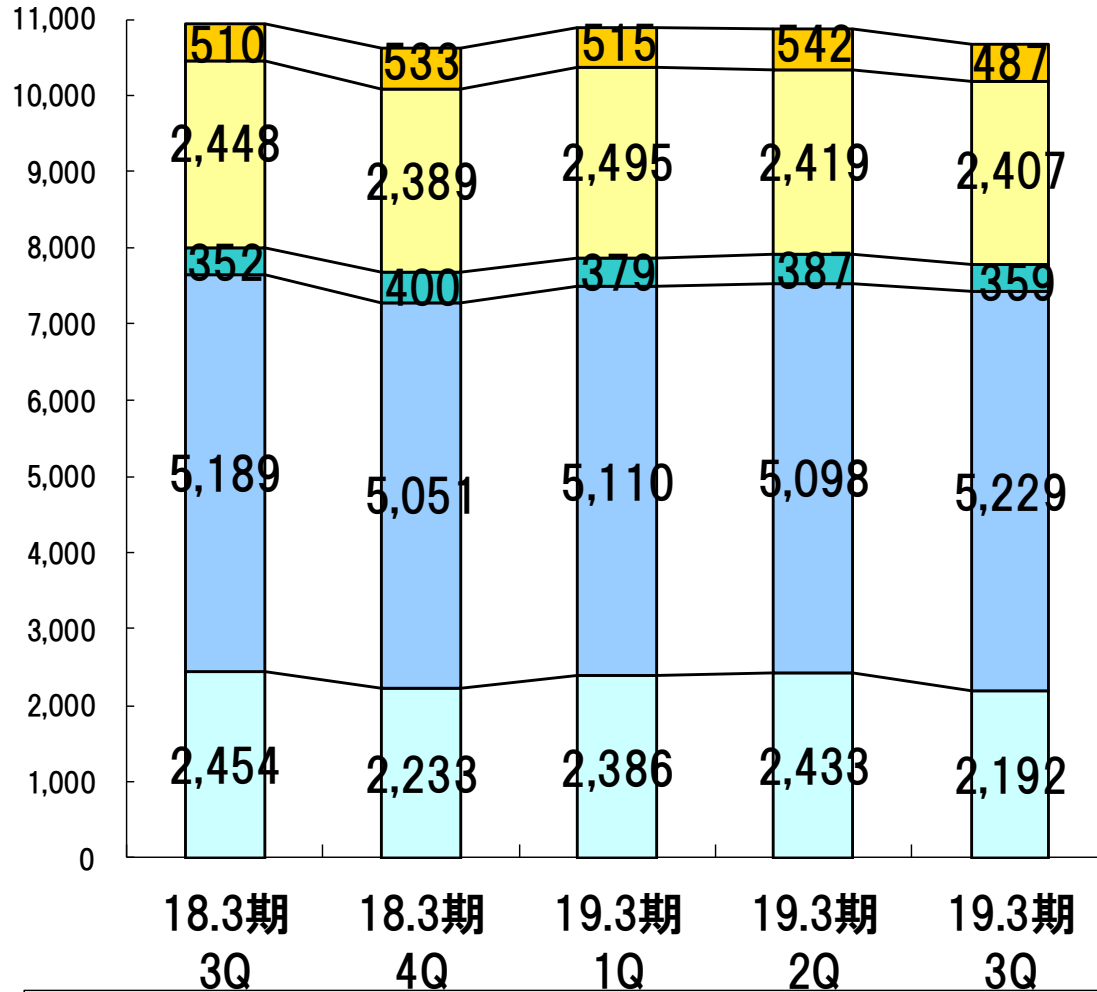
# 6. 製品別売上高(四半期推移)



単位：百万円

10,954 10,607 10,886 10,879 10,675

◆対18.3期3Q



その他 95.4%

車載IFコネクタ 98.3%

ピンヘッダー 102.0%

BtoBコネクタ 100.8%

FPCコネクタ 89.3%

・ 車載市場の増加

・ AVN分野、  
コンシューマー市場での減少



□FPC □B to B □ピンヘッダー □車載向けIF □その他



## 7. 損益計算書(連結)(前年同期比)



単位：百万円

	18.3期 第3四半期累計		19.3期 第3四半期累計		前年同期比	
売上高	31,641	100.0%	32,440	100.0%	799	102.5%
売上原価	19,490	61.6%	20,816	64.2%	1,325	106.8%
売上総利益	12,150	38.4%	11,624	35.8%	△525	95.7%
販売管理費	5,953	18.8%	6,611	20.4%	658	111.1%
営業利益	6,196	19.6%	5,012	15.5%	△1,183	80.9%
営業外収益	74	0.2%	300	0.9%	226	403.0%
営業外費用	184	0.6%	24	0.1%	△160	13.1%
経常利益	6,087	19.2%	5,289	16.3%	△797	86.9%
特別損益	△114	△0.4%	△139	△0.4%	25	121.8%
税前利益	5,972	18.9%	5,149	15.9%	△822	86.2%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	4,424	14.0%	3,869	11.9%	△554	87.5%
E P S	186.87円		163.86円		-	
為替レート (ドル/ユーロ)	111.82円/		110.82円/		△1.00円/	
	128.59円		129.38円		0.79円	



## 8. 貸借対照表(連結)(前期末比)



単位：百万円

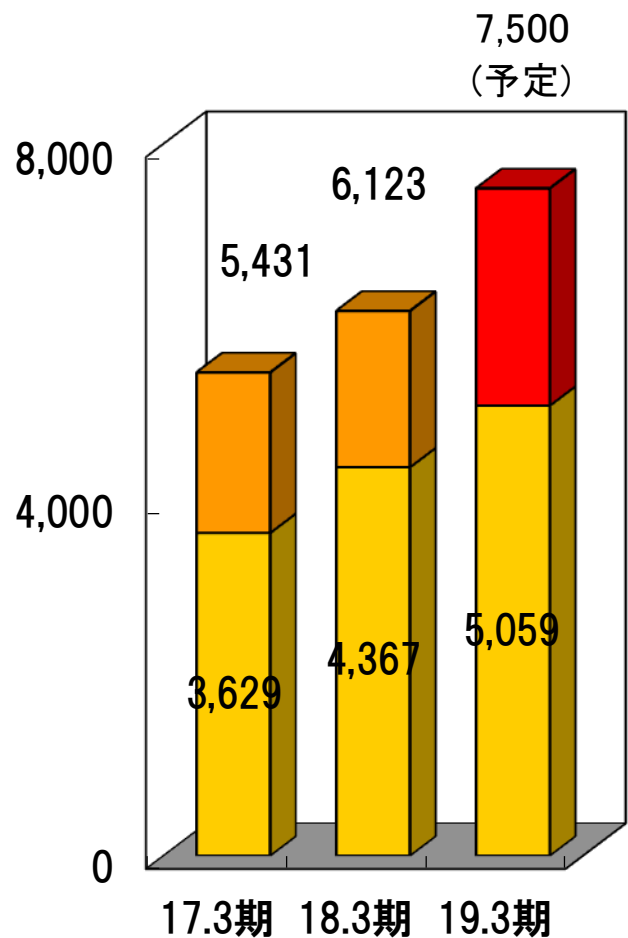
	18.3期	19.3期 第3四半期	前期末比	増減要因
流動資産	35,858 59.7%	35,123 58.1%	△734	現金及び預金△2,400 商品及び製品1,058 原材料及び貯蔵品448
固定資産	24,224 40.3%	25,295 41.9%	1,070	有形固定資産1,175
資産合計	60,083 100.0%	60,419 100.0%	335	
流動負債	10,046 16.7%	8,522 14.1%	△1,524	支払手形及び買掛金△328 未払法人税等△507 未払金△603
固定負債	753 1.3%	736 1.2%	△17	
負債合計	10,800 18.0%	9,258 15.3%	△1,541	
株主資本	47,482 79.0%	49,498 81.9%	2,015	利益剰余金2,685
その他の 包括利益累計額	1,530 2.6%	1,374 2.3%	△156	為替換算調整勘定△149
非支配株主持分	270 0.5%	288 0.5%	17	
純資産合計	49,283 82.0%	51,160 84.7%	1,877	1株純資産 2,158.67円 (前期末 2,070.36円)
負債・純資産 合計	60,083 100.0%	60,419 100.0%	335	



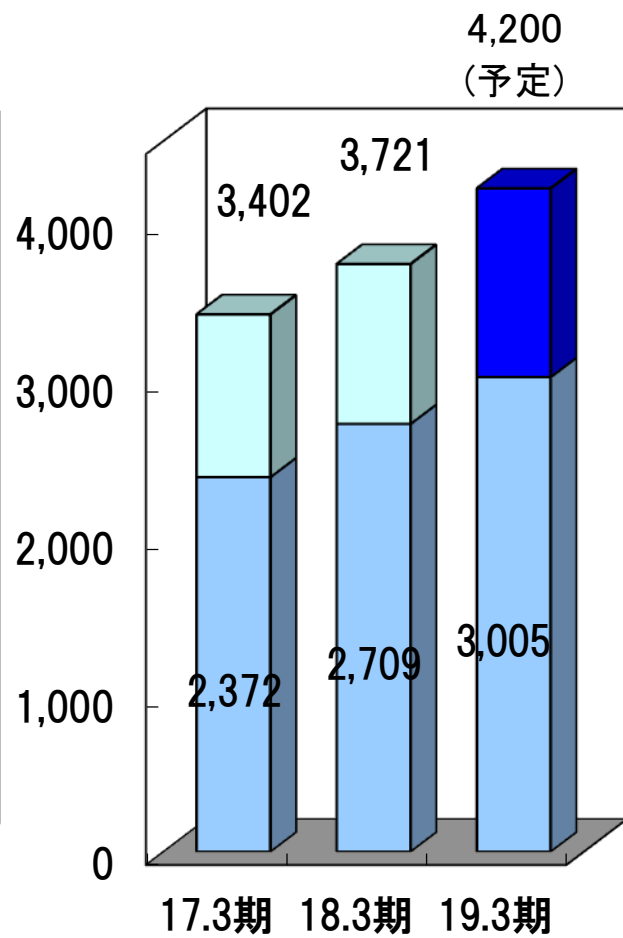
# 9. 設備投資・減価償却・研究開発



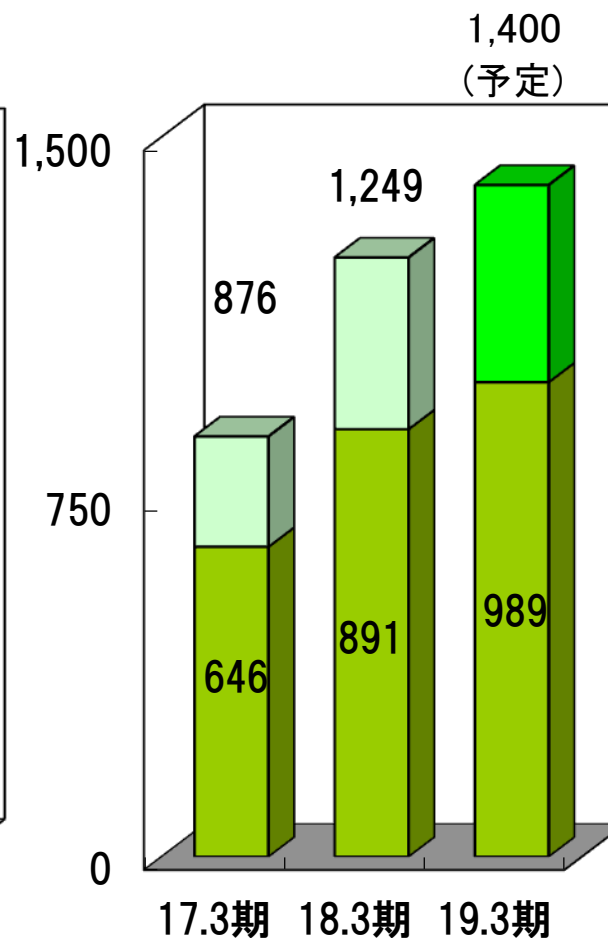
単位：百万円



## 設備投資



## 減価償却

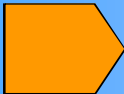


## 研究開発

注：各グラフの数値は、下段に第3四半期累計の実績、上位に通期での実績(19.3期は予定)を記載



I . 2019.3期 第3四半期連結決算概要

 II . 2019.3期 連結決算見通し

III . 中長期事業環境と取り組み

# 1. 2019年3月期 修正計画



単位：百万円

米中貿易摩擦の影響、欧州でのWLTP導入による影響など、  
一時的な外部環境の悪化を考慮して、売上・利益ともに下方修正致します

	18.3期 実績	19.3期 期初計画	19.3期 修正計画
売上高	42,248	45,500	43,000
営業利益	8,426 (19.9%)	8,900 (19.6%)	6,500 (15.1%)
経常利益	7,872 (18.6%)	8,700 (19.1%)	6,700 (15.6%)
親会社株主に 帰属する 当期純利益	5,456 (12.9%)	6,100 (13.4%)	4,100 (9.5%)
EPS	230.47円	257.67円	173.70円
為替	ドル 110.81円 ユーロ 129.45円 元 16.74円	ドル 105.00円 ユーロ 125.00円 元 16.50円	ドル 110.82円 ユーロ 129.38円 元 16.55円

当期純利益：移転価格税制に係る法人税などの追加徴税の可能性が高まったため、  
本税及びそれに係る付帯税の合計を通期業績に織り込んでおります

## 2. 2019年3月期 下期重点活動進捗状況

単位：百万円

- ・ 生産調整と収益低下要因を織り込むものの、第3四半期から取り組んでいる追加の原価低減、経費の厳選実施を引き続き徹底して行い、修正計画の達成をまいります
- ・ **長期ビジョン売上1,000億円のための取り組み(技術開発、マーケティング、営業活動、生産力の強化、人財の強化)は積極的に実施**

	19.3期 3Q単独実績	19.3期 3Q累計実績	19,3期 4Q単独見込み	19.3期 修正計画
売上高	10,675	32,440	10,560	43,000
営業利益	1,338 (12.5%)	5,012 (15.5%)	1,488 (14.1%)	6,500 (15.1%)

	項目	施策
重点活動	売上積上げ	採用確定案件のシェアアップ
	追加の原価低減	部品の内製化 合理化設備前倒しによる労務費削減
	経費の厳選実施効果	不要不急の経費支出の抑制



I. 2019.3期 第3四半期連結決算概要

II. 2019.3期 連結決算見通し

 III. 中長期事業環境と取り組み



# 1. 中長期事業環境

## 車載市場、インダストリアル市場に到来する大きな変化

### 車載市場

### インダストリアル市場

#### 駆動方法の変化→電動化



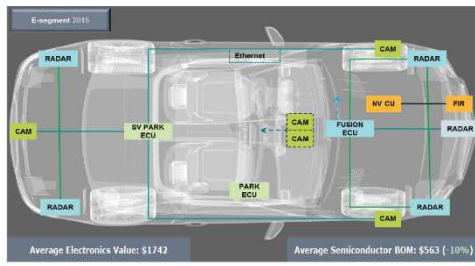
(増加機器)  
コンバーター、  
インバーター、  
充電器、バッテリー  
監視システムなど

#### 通信市場の変化→5Gの到来、IoT、 コネクテッドカー



(増加機器)  
通信モジュール、  
基地局、アンテナ、  
データストレージ、  
サーバーなど

#### 運転方法の変化→自動運転



(増加機器)  
車載カメラ、  
LiDAR、  
レーダー、  
ソナーなど

#### モノづくりの変化→ロボットの活用



(増加機器)  
ロボット、PLC、  
インバーター、  
サーボモーター、  
センサーなど

⇒短期的な市況悪化は一時的要因。

中長期を見据え、変化を捉え、チャンスとしていく



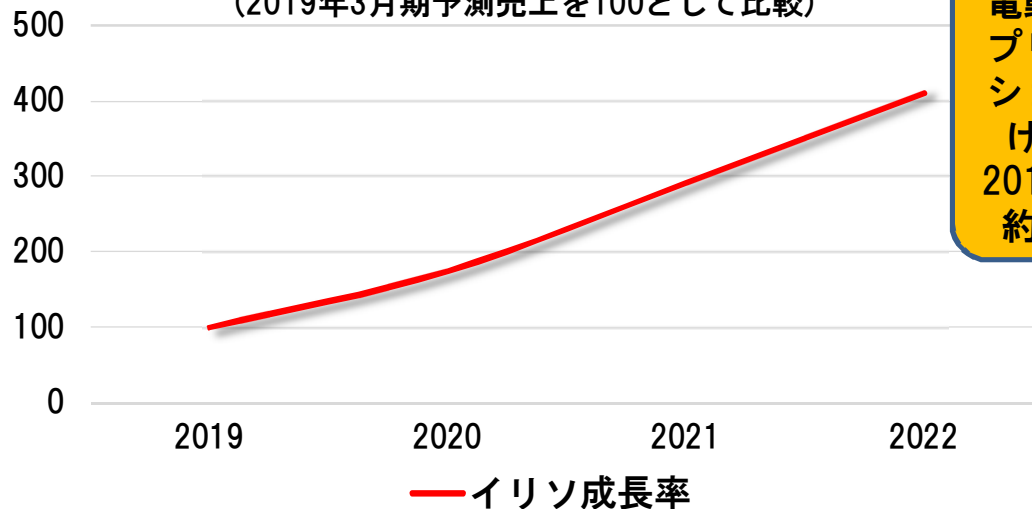


## 2. 中長期事業環境 -車載市場(電動化)-



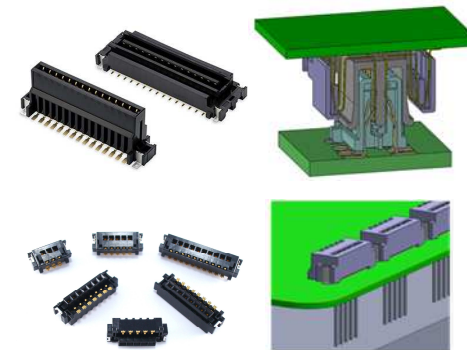
市場	変化	市場性	顧客ニーズ	イリソの取り組み
車載	<b>電動化</b> (EV、PHEV、HV車の増加)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 走行距離向上</li> <li>・ 燃費改善</li> <li>・ 冗長設計</li> <li>・ モーター化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 軽量化</li> <li>・ 小型化</li> <li>・ 自動組立</li> <li>・ 高効率化</li> </ul>	①PCU(インバーター、コンバーター)部分、モーター部分 ⇒Z-Move®コネクタ活用でハーネスレス・半田レス接続可能。 軽量化、小型化/自動組立を実現 ②バッテリー部分 ⇒小型WtoBコネクタで充電器の小型化を実現

2022年3月期までの成長率予測  
(2019年3月期予測売上を100として比較)

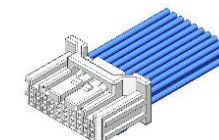


電動化アプリケーション向け売上  
2019年比約400%

①小型/自動組立対応⇒Z-Move®コネクタ



②軽量化対応⇒小型WtoBコネクタ



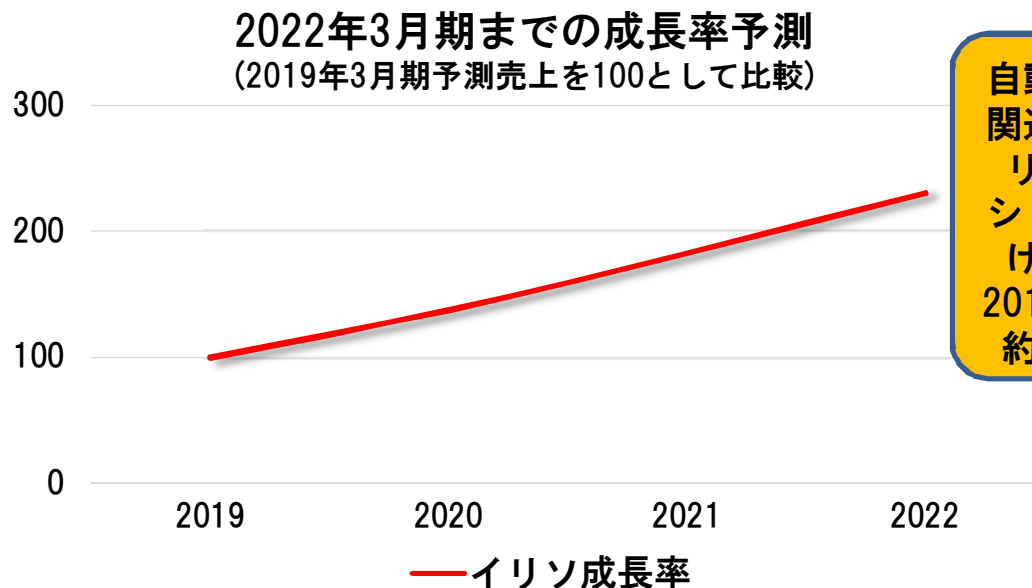


### 3. 中長期事業環境 -車載市場(自動運転化)-

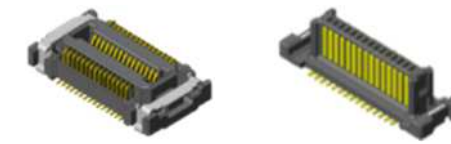


市場	変化	市場性	顧客ニーズ	イリソの取り組み
車載	自動運転化 (繋がる車 : Connected)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ センサ数増加 (車載カメラ、レーダー、LiDAR)</li> <li>・ センサーフュージョン化</li> <li>・ 通信機能搭載増</li> <li>・ 車内ネットワーク進化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小型化</li> <li>・ 自動組立</li> <li>・ 高速伝送</li> <li>・ 機能性コネクタ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① <u>小型化、自動組立対応</u> ⇒ 0.4mm BtoB コネクタ (可動、固定) ⇒ <b>世界最小/高速伝送対応可動BtoBコネクタ</b></li> <li>② <u>自動組立対応</u> ⇒ Auto-I-Lock FPCコネクタ</li> <li>③ <u>IF一体型EMC/放熱対応</u> ⇒ カメラ用機能性筐体</li> <li>④ <u>LVDS高速伝送対応</u> ⇒ LVDS用コネクタハーネス</li> </ul>

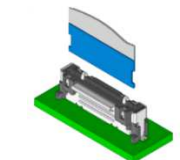
① 小型/自動組立対応 ⇒ **小型BtoBコネクタ**



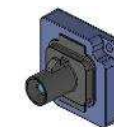
自動運転  
関連アプ  
リケー  
ション向  
け売上  
2019年比  
約230%



② 自動組立対応 ⇒ **Auto-I-Lock FPCコネクタ**



③ 機能性コネクタ  
⇒ **IF一体放熱/EMC機能筐体**







④ 機能性コネクタ  
⇒ **LVDS用コネクタハーネス**

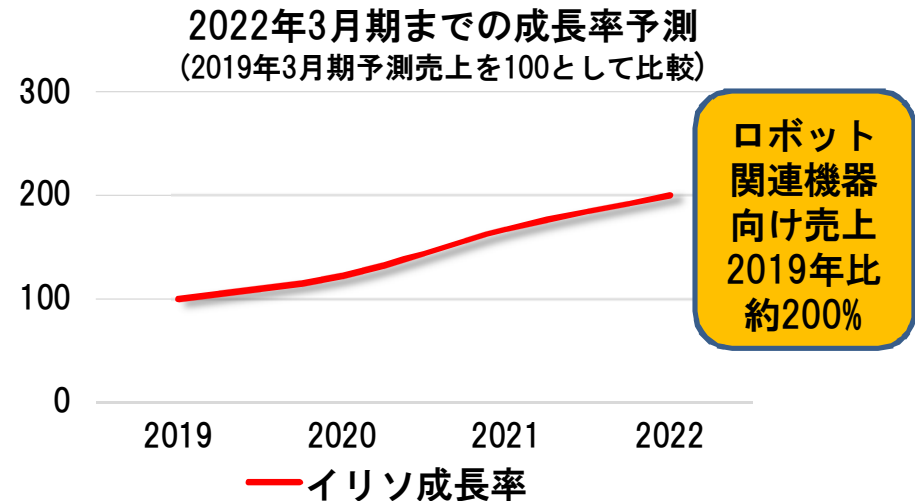
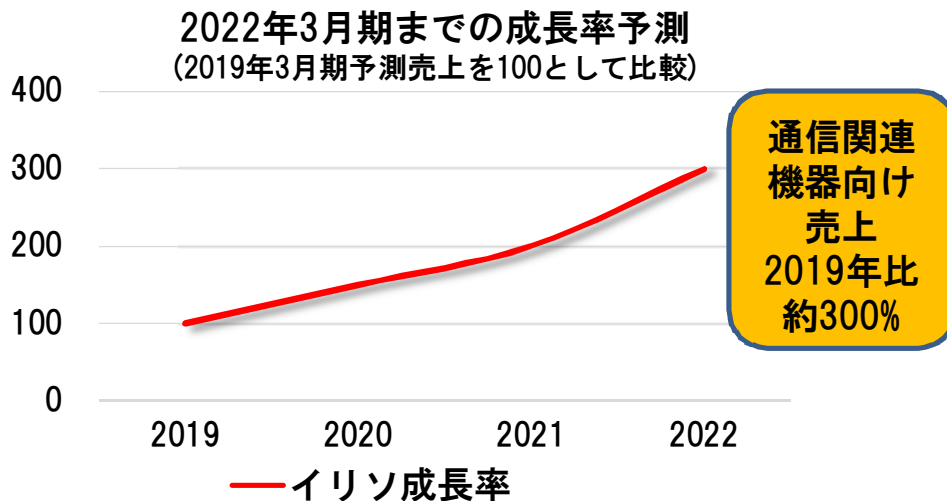




# 4. 中長期事業環境 - インダストリアル市場 -



市場	変化	市場性	顧客ニーズ	イリソの取り組み
インダストリアル	<b>通信市場の変化</b> (5Gの到来)	<ul style="list-style-type: none"> <li>通信関連機器増加</li> <li>新サービス誕生</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高速信号</li> <li>小型化</li> <li>自動組立</li> </ul>	①小型/高速対応 <b>0.4mm可動BtoBコネクタ</b>  ②超高速伝送対応Auto-I-Lock FPCコネクタ 
	<b>物づくりの変化</b> (ロボット活用)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ロボットがロボットを組み立て</li> <li>周辺機器の増加</li> <li>センサーの増加</li> <li>労働人口減少</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ロボットによる自動組立</li> <li>高速信号</li> <li>小型化</li> </ul>	①自動組立対応小型/高速可動コネクタ  ②ロボットの振動部分への <b>Z-Move®コネクタ</b> の採用 



会 社 名	：	イリソ電子工業株式会社
事 業 内 容	：	各種コネクタの製造・販売
設 立 年 月	：	1966年（昭和41年）12月
社 員 数	：	3,367名（平成30年3月31日現在）
資 本 金	：	5,640百万円（平成30年3月31日現在）
本 社	：	神奈川県横浜市港北区新横浜2-13-8
営 業 拠 点	：	
	国内	本社、岩手県、茨城県、愛知県、大阪府
	海外	シンガポール、香港、アメリカ、ドイツ、タイ、韓国 中国（上海、大連、天津、蘇州、深圳、重慶）、マレーシア、 台湾、インド
研 究 開 発	：	本社（イリソテクノロジーパーク）、 川崎（生産技術センター）、上海R&Dセンター
工 場	：	茨城県、中国（上海、南通）、フィリピン、 ベトナム（ハイズオン）

## コネクタの種類

### 基板対基板コネクタ（BtoBコネクタ）

プリント基板の接続用に開発されたコネクタの総称でボード・ツー・ボードコネクタ（ボードtoボードコネクタ）とも呼ばれる。垂直接続、平行(スタッキング)接続、水平接続など組み合わせで、さまざまな接続が可能となる。B to B（ビー・ツー・ビー）は、当社の登録商標として市場で広く浸透している。

### FPC/FFCコネクタ

FPC基板（Flexible printed circuits）やFFCケーブル（Flexible flat cable）の接続用に開発されたコネクタの総称。コネクタの挿入時に力を加えずにロック可能なZIF（Zero insertion Force）タイプ、挿入したときに力が発生するNON-ZIFタイプがある。

### I/Fコネクタ

I/Fとは、インターフェイスの略で、機器間の信号の接続を行うコネクタのことで、I/O（インプット／アウトプット）コネクタとも呼ばれる。カーナビ、PCなどさまざまな機器の側面（裏・表面）に装着され、機器への電源供給、音声・映像信号データなどの入出力を行う。

### ピンヘッダー

線材をカット加工した“ピン（電導体）”をハウジング（樹脂材でできた絶縁体）で支えたプラグ（オス側）コネクタの基本形であり、さまざまな分野・機器の内部接続（基板間接続）に使用されている。横から見ると、生け花の花止め“けんざん”のように見えるのが特長。メス側はソケットと呼ばれる。

この資料に記載されております業績の予想数値につきましては、本資料の発表日現在で得られた入手可能な資料に基づいて作成したものであり、今後の様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

当社といたしましては、投資家の皆様にとって重要と考えられるような情報について、その積極的な開示に努めて参りますが、本資料記載の見通しのみに依拠してご判断されることはお控え下さるようお願いいたします。

なお、本資料の利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。